

はじめに

本書は、平成二一年度から実施している国庫補助事業「国東半島荘園村落遺跡詳細分布調査」の報告書資料編です。この調査は、大分県杵築市山香町を中心とした中世山香郷の故地を調査対象としています。

戦後七〇年を迎えた今日、農業の機械化、生活様式や産業構造の変化、都市への人口の集中等によって、日本のムラは大きな変貌を遂げています。その一方で、ムラには、古文書をはじめ、多様な石造文化財や祭礼行事、古い地名や水利体系、そしてこれら一つ一つが織りなす伝統的な景観がまだ残っています。この調査では、そうした有形・無形の歴史遺産の現状を可能な限り調査・記録するとともに、現在から過去へとムラの歴史を遡及することにより、その歴史的価値を明らかにすることを目指しています。

今回は、近世における山香郷の概要を物語る検地帳、および石造文化財の図面や写真を収録しています。皆様が、変貌著しい日本のムラを見つめ直す際、この調査とその成果が一つの手がかりとなれば幸いです。

最後になりましたが、調査のご指導をいただいた調査委員および調査員の先生方、そして調査にご協力を賜りました杵築市・杵築市教育委員会と地元の方々に厚く御礼を申し上げます。

平成二七年三月

大分県立歴史博物館

館長 小林 浩典